

目 次

はじめに	2
I 昭和57年度 管理運営概要	
1. 組 織	3
2. 予 算	4
3. 事業計画	5
II 昭和56年度 管理運営概要	
1. あゆみと日誌抄	6
2. 職 員	8
3. 博物館協議会委員	8
4. 入館状況	9
III 昭和56年度 事業概要	
1. 常 設 展	10
(1) 刀剣コーナー	
2. 貸しギャラリー	10
3. 移 動 展	11
4. 特 別 展	
(1) 美濃の絵馬	12
(2) 御岳山は生きている	15
(3) ふるさとの美濃古陶	17
5. 資料紹介	
(1) ワラと暮らし	19
(2) 県内のほ乳動物	20
6. 資料調査収集活動	
(1) 人文部門	21
(2) 自然部門	23
7. 教育普及活動	25
8. 全館燻蒸	28

はじめに

岐阜県は、動植物の宝庫であるだけでなく、歴史的にも幾多の研究素材を秘めているふるさとでもあります。そういった環境を象徴するような緑豊かな丘陵地に、色彩のコントラスト鮮やかに建設された岐阜県博物館は、昭和51年5月開館以来、6か年の歴史を刻み、70万人余の入館者に及んでいます。

この歴史の一つ一つは県民のみなさんのあたたかい御理解と御支援のたまものであると感謝いたしております。

博物館は、実物による教育の場であります。自分の目や耳で確かめ発見し、学習することができる教育機関であるといえます。いつでも、だれでも、どの様にでも利用して、生涯学習のできる場であります。

生涯教育の必要性は、近年盛んに説かれております。当博物館におきましても、そういった機関としての役割を担いながら、愛され、親しまれる県民の博物館を目途して、充実を図っております。従って県内に埋もれている文化財の調査・研究・収集・展示及び種々の講演会・教室等を実施することによって、県民との密接なる融合をはかるべく県民参加の博物館づくりに意をそそいでいる次第でございます。

ここに、岐阜県博物館報第5号をお届けいたします。御高覧賜り、今後の当博物館の将来のためにご高見をいただければ幸甚に思います。

最後に、今後とも一層の御理解と御支援を賜りますこと切にお願い申し上げます。

昭和57年7月1日

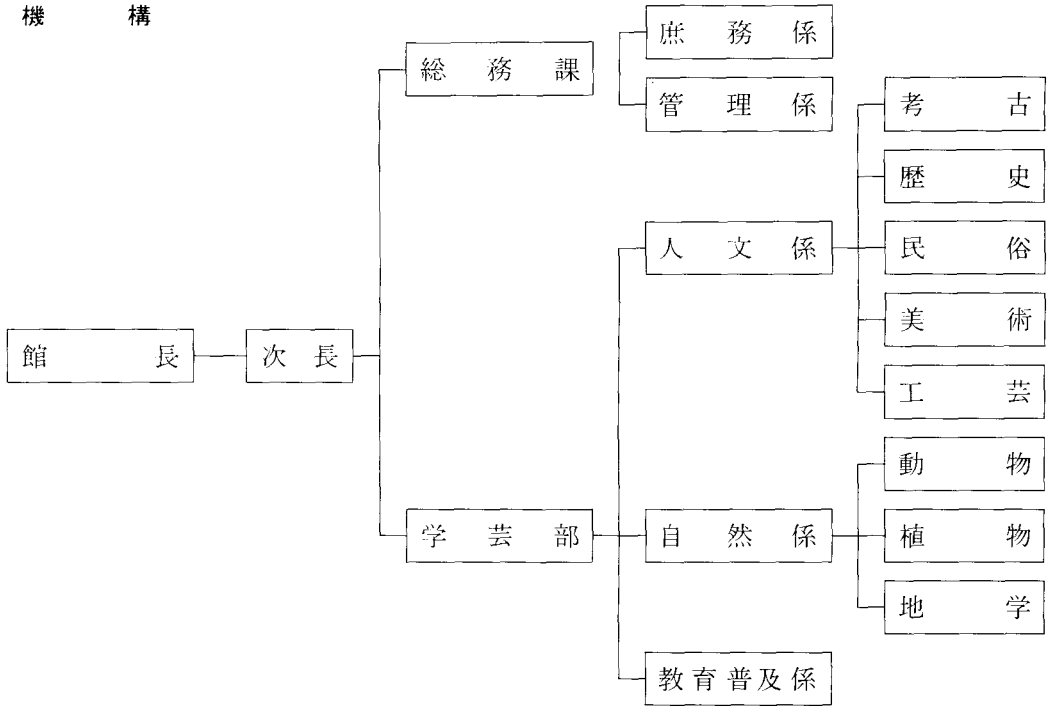
岐阜県博物館長

吉本幹彦

I 昭和57年度 管理運営概要

1. 組織

(1) 機構



(2) 職員

昭和57年4月1日現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	吉本幹彦	○学芸部	
次長	小野治道	学芸部長	太田哲郎
○総務課		主任学芸主事兼人文係長	太田日出登
主任兼総務課長	西村義郎	学芸主事	早野博之
主任兼庶務係長・管理係長	中村惇章	"	西村覚良
主事	服部千章	教育主事(学芸員)	徳松正広
"	早川つな	学芸主事(学芸員)	横山泰
技術員	高島利次	主任学芸主事兼自然係長	富田保男
(兼)管理係長	中村惇章	学芸主事(学芸員)	笠原芳雄
主事	仙石勉	"(学芸員)	柴田佳章
"	山下弘子	"(学芸員)	小野木三郎
業務嘱託	長谷川恵子	学芸嘱託	小宮野伸也
"	谷口真由美	教育普及係長	中島良太
"	薦木伸子	学芸主事(学芸員)	平井昭彦
"	酒井真由美	学芸嘱託	平国光溢夫
"	各務章子		
"	成瀬清美		

(3) 博物館協議会委員 (アイウエオ順)

◎印 ……会長 ○印……副会長

昭和57年6月1日現在

氏名	住所	現職
奥村 保	岐阜市加納鉄砲町1-17	岐阜県公民館連合会長
坂倉 又吉	羽島市竹鼻町2733	千代菊(株)取締役社長
沢田 鉄男	岐阜市野一色2-16-8	岐阜県小学校長会長
玉田 幸人	岐阜市萱場町中起599-11	岐阜日日新聞社専務取締役
○土屋 斉	大垣市荒尾町1077	(株)大垣共立銀行取締役頭取
中西 行雄	岐阜市長良大前町2-12	岐阜県中学校長会長
野村 忠夫	稲沢市下津町東国府34	岐阜大学教育学部教授
◎林 金雄	各務原市那加雲雀町37	大垣女子短期大学教授
深井 重三郎	岐阜市鏡島菖蒲池1621	岐阜県私立中学高等学校協会会長
村井 実	岐阜市日光町3-2	岐阜県高等学校長協会会長

2. 予 算

当初予算額 (単位千円)

区分	年度		昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度
	内訳				
歳入	国庫支出金		900	900	500
	博物館使用料		10,345	11,567	9,198
	諸収入		165	278	281
	合計		11,410	12,745	9,979
歳出	博物館 管理運営費	運営費	122,541	25,612	24,725
		施設管理費	65,533	87,695	80,662
博物館協会費		260	260	260	
計		88,334	113,567	105,647	
出	博物館 事業費	常設展示費	16,729	16,279	15,279
		特別展示費	10,000	6,500	6,500
		資料収集管理費	1,250	1,300	1,300
		教育普及活動費	2,300	2,300	2,300
		調査研究費	—	—	600
		計	30,279	26,379	25,979
合計		118,613	139,946	131,626	

3. 事業計画

展示活動

	期 間	主 な 展 示 内 容
常 設 展		1階は郷土の自然、2階は郷土のあゆみと美術工芸を展示 (1階の自然スタディコーナーは月別・2階の刀剣コーナーは年4回展示替え)
(特別展) 高賀山の信仰	4/23～5/30	「鬼と行者と円空と」をサブテーマに山岳信仰の美術工芸品を紹介
() ふるさとの植物	7/20～9/5	「分布のなぞをさぐる」をサブテーマに、植物社会のようすを実物資料や生態写真・図表などで紹介
() 東洋の貨幣	10/1～10/31	和同開珎などの銭や金判・銀判さらに藩札などを紹介
移 動 展	8/18～8/24	会場・高山市立図書館
	9/9～9/17	会場・大垣市立文化会館
		「身近なものになった帰化植物」「県内に生息するほ乳動物」を紹介
(資料紹介展) 郷土の偉人 梁川星巖	12/16～1/30	梁川星巖の遺墨数十点を紹介
() 県下の古生代化石	2/11～4/3	県内産のおもな化石を中心に紹介
美 濃 陶 芸 展	6/10～6/20	美濃陶芸協会会員による新作を紹介

教育普及活動

事 業 名	期 日	対 象	定 員	内 容
人文移動教室	5/2(日)	一 般	25人	奥美濃の高賀山六社めぐり
講 演 会	5/9(日)	一 般	100人	「高賀山の信仰」 (前県郷土資料研究協議会長 船戸政一氏)
自然教室	5/30(日)	中学生以上 一 般	80人	「陸貝の生活」 (日本貝類学会員 高崎 惇氏)
自然教室	6/27(日)	中学生以上 一 般	80人	「みずなみの海——古瀬戸内海の時代」 (名大助教授 糸魚川淳二氏)
自然観察会	8/1(日)	小・中学生 保 護 者	40人	白川村大窪に前日集合(民宿 大杉) 野鳥・植物観察
講 演 会	8/8(日)	一 般	100人	「ふるさとの植物」 (井波植物研究所長 井波 雄氏)
体験学習会	8/22(日)	小・中学生	30人	竹細工づくり (竹細工師 石原文雄氏)
講 演 会	10/11(月)	一 般	100人	「貨幣の歴史」 (東海貨幣研究会会長 鬼頭晴彦氏)
人文教室	10/31(日)	中学生以上 一 般	80人	「美濃の諸藩と藩札」 (岐大助教授 松田之利氏)
自然教室	11/7(日)	中学生以上 一 般	80人	「天然記念物」 (岐大名誉教授 堀 武義氏)
自然移動教室	11/14(日)	小・中学生 保 護 者	25人	地質めぐり 各務原—美濃加茂—可児
体験学習会	12/19(日)	小・中学生	30人	しめなわづくり (農業 大野仁久氏)
自然観察教室	4/29・7/4 10/17・11/21	小・中学生	30人	百年公園の植物しらべ (4月・11月) 百年公園の昆虫しらべ (7月・10月)
子ども考古教室	8/5・8/12 8/19	小・中学生	30人	石器・土器の話・拓本のとり方
夏休み学習相談	7/27～7/29 8/25・8/26	小・中学生	—	夏休みの研究並びにその整理について相談に応じる
岐阜県の歴史教室	5/16・7/18 9/19・11/14	中学生以上 一 般	30人	古文書を読み歴史をさぐる会
自然サンデー教室	4/18・5/16・ 8/15・9/19	6/13・7/25・ 10/3・11/28	入館者	自然展示室のコーナー解説
日曜映画会	4/25～5/30		入館者 150人	16ミリ「奥美濃の風物」ほか
	7/25～9/5			スライド「ふるさとの植物」ほか
	10/3～10/31			スライド「美濃の藩札」ほか

Ⅱ 昭和56年度 管理運営概要

1. あゆみと日誌抄

開館5年を経て、基礎づくりの時期から充実発展への大きな課題に挑む年として、博物館建設の原点にかえり、全館あげての連携・協力体制の確立、資料の収集・整理から、その多面的な活用、教育普及活動の質的・量的拡充を柱とし、新しい発想のもとに創意工夫に努め、博物館事業に対する理解と啓蒙を深め、生涯教育の場としての機能を今後一層発揮していくことが期待される充実した年であった。

春の特別展「美濃の絵馬」は、絵馬奉納のあとをたどり、その世相・風俗・庶民の素朴な悩み解決の祈願、赤裸々な心情を紹介し、絵馬が歴史・民俗資料として貴重なものであることへの認識を深め、文化財保護思想喚起の一助となり得た。

夏の特別展「御岳山は生きている」は、豊かな自然の宝庫御岳山の自然を総合的に紹介し、自然ならびに、自然と人とのかかわりについての関心と理解を深めた。

秋の特別展「ふるさとの美濃古陶」は、桃山時代から江戸初期までの美濃焼の歴史を物語る優品約100点を一堂に展観。陶芸家館長の陣頭指揮のもとに大成功であった。入館者も27,546人を数え、特別展入館成績としては館創設以来のものであった。美濃の先人の築きあげた文化遺産を理解し文化創造活動について考えさせ、深い感銘を与え、県民文化向上への貢献は大きいものがあつた。

資料紹介展「わらと暮らし」「岐阜県のほ乳動物」では、現在ではシメナワなどにしか見られなくなっているわらが、各種の生活用具にいかにも利用されてきたかの理解を深めることができた。後者では、収蔵資料を主体に、県内産のほ乳動物の剥製標本、骨格標本など約90点を展示し、身近かな生物に対する一般の関心をたかめるとともに、生物についての基礎的な知識の普及に貢献した。

6月には、美濃陶芸協会、中日新聞社主催の、「美濃陶芸展」を当館で開催。荒川豊蔵、加藤幸兵衛をはじめ、本県現代陶芸作家69人の最近の秀作約90点を紹介し愛好家間に好評であった。

9月には岐阜県美術館の「いざない展」を開催

1年後の開館をひかえ、これまでに収集された約30点を公開。ルノアールの「泉」が人気をよび、観覧者約1万人におよぶ盛況であった。

54年開設の視覚障害者コーナーは、展示資料や点字解説の拡大・整備をはかり、きめ細かい充実をみた。後期には、動物、円空仏（複製）などの資料で直接手で触れることによって実感を味わう展示の拡充を図り、各層の好評を博した。

1階ロビーのスタディコーナーは、毎月入れかえて年間12回、動物、植物、地学の各分野いずれも回を追って充実し、小中学生は勿論、一般の来館者の興味・関心をひき、所期の目的を果たした。

3月には人文分野でも、2館ロビーに土人形、雛人形を展示、季節感のある小展示は人々の目をひいた。

2月には、ナウマンゾウ全身骨格復元標本を1階ロビーに設置、数少ない貴重な標本として親しまれることになった。

最後に、教育普及活動では、特別展関連の「講演会」のほか、「自然教室」「自然観察会」「体験学習会」「製作実演会」等を開催、体験学習会や、御岳山麓での野鳥・植物観察会は多数の参加者があり、親子連れで熱心にとり組まれたことは、まことに有意義であった。又本年度は新装なった多治見市文化会館において、帰化植物、石器、土器などの触察資料を移動展示した。障害者年にあたり、視覚障害者にも十分楽しんでいただくことができたことは、誠に意義深いことであつた。

日 誌 抄

4・1 人事異動

退職業務嘱託員	岩田 節子
〃	臼井真由美
〃	大西 早苗
転出次主	長 丹羽 遙
〃	宮西 武彦
〃	久保 友子
学芸部長	吉田藤太夫
主任学芸主事兼人文係長	宮川 貞郎
学芸主事	水野 一
〃	堀部 満



転 入 次 長 小野 治道
 主 事 服部 千章
 〃 早川 つな
 学 芸 部 長 太田 哲郎
 主任学芸主事兼人文係長 国本日出登
 学 芸 主 事 西村 覚良
 教 育 主 事 徳松 正広
 新 任 業 務 嘱 託 員 谷口真由美
 〃 蔦木 伸子
 〃 酒井真由美

- 4・1 「博物館だより」第14号発行
- 17 佐賀県財政課一行来館
- 24 特別展「美濃の絵馬」開幕
- 26 岐阜県博物館協会総会
- 29 自然教室「春の蝶たち」
- 5・3 講演会「絵馬の歴史」
入館者60万人突破 記念品贈呈
- 4 自然観察会「百年公園の植物しらべ」
- 5 製作実演会「小絵馬づくり」
- 14 生涯教育情報提供事業協力者会議
- 15 県教育委員視察
- 23 東京国立文化財研究所員来館
- 27 岐阜県博物館協議会
- 29 県議会文教警察委員視察
美濃伝鍛刀工程解説資料受納式
刀匠 中田兼秀氏より資料寄贈
- 31 特別展「美濃の絵馬」閉幕
- 6・3 博物館職員講習会（23日まで）に横山
学芸主事出席
- 10 美濃陶芸展開幕（21日まで）
- 16 沖縄県博物館員一行来館

- 6・24 「くらしを守る砂防展」開幕（19日まで）
- 25 東海地区博物館連絡協議会総会
- 27 移動展開幕 於多治見市文化会館
- 28 自然教室「古生代の郷土」
- 29 日本博物館協会館長会議 館長出席
- 30 日本博物館協会評議員会 館長出席
- 7・1 「岐阜県博物館報」第4号発行
「博物館だより」第15号発行
- 4 全館燻蒸（11日まで）
- 21 特別展「御岳山は生きている」開幕
- 24 全国文化課長会一行来館
- 26 体験学習会「日よけ背中みのづくり」
- 8・2 自然観察会 於御岳自然休養林
- 16 講演会「御岳山—その生いたちと噴火」
- 28 体験学習会「竹とんぼづくり」
- 9・1 安藤淳学芸主事 洞戸小校長に転出
柴田佳章学芸主事転入
- 6 特別展「御岳山は生きている」閉幕
- 13 国際林業研究機関連合第17回世界大会
出席者ツアー第12コース一行来館
- 15 岐阜県美術館「いざない展」開幕
- 17 県議会文教警察委員会視察
文部省視聴覚課長来館
- 23 自然観察会「百年公園の初秋の植物」
- 27 岐阜県美術館「いざない展」閉幕
- 10・1 「博物館だより」第16号発行
- 9 特別展「ふるさとの美濃古陶」開幕
- 11 体験学習会「野焼きによる土器づくり」
- 16 フィジー青少年委員、同YMC A委員
オイスカ岐阜県支部員と来館

- 10・21 福島県教育委員一行来館
25 自然教室「県内の植物地理」
- 11・3 講演会「美濃古陶とペルシア」
7 東海財務局長、名古屋国税局長来館
19 沖縄県議会土木委員会一行来館
22 体験学習会「野やき」
23 特別展「ふるさとの美濃古陶」閉幕
- 12・6 名古屋市地学教育研究会一行来館
15 資料紹介展「わらと暮らし」開幕
20 体験学習会「しめなわつくり」
28 害虫駆除
- 1・29 消防訓練実施
- 2・5 東海地区小学校社会科研究会一行来館
ナウマンゾウ全身骨格復元標本設置
6 国立科学博物館図書課長来館
- 2・10 ナウマンゾウ全身骨格標本除幕式
11 資料紹介展「岐阜県のほ乳動物」開幕
19 博物館、図書館、歴史資料館 三館連絡会議 (於歴史資料館)
23 通産省工業技術院地質調査所地質部地質標本課長来館
- 3・16 国立科学博物館付属自然教育園
自然教育係長来館
28 自然観察会「百年公園の早春の植物しらべ」
31 「岐阜県産貝類標本総合目録」発行
「岐阜県博物館調査研究報告書」第3号発行
館長 大橋桃之輔、業務嘱託員 大野晴美、加藤由紀子 退職

2. 職員

昭和56年4月1日現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	大橋桃之輔	○学芸部学芸部長	太田哲郎
次長	小野治道	主任学芸主事(兼)人文係長	国本日出登
○総務課課長(兼)管理係長	西村義郎	学芸主事	二村智
主任主査(兼)庶務係長	村地昭義	〃	西村覚良
主事	服部千章	教育主事	徳松正広
〃	早川つな	学芸主事	横山泰
技術員	高島利次	主任学芸主事(兼)自然係長	山田康夫
(兼)管理係長	西村義郎	学芸主事	安藤惇
主事	仙石勉	〃	笠原芳雄
〃	古田信彦	〃	小野木三郎
業務嘱託	大野晴美	学芸嘱託	宮野伸也
〃	加藤由紀子	教育普及係長	鈴木正太郎
〃	長谷川恵子	教育主事	佐野正隆夫
〃	谷口真由美	学芸嘱託	国光溢夫
〃	薦木伸子		
〃	酒井真由美		

3. 博物館協議会委員 (アイウエオ順) ◎印 会長 ○印 副会長

昭和56年6月1日現在

氏名	住所	現職
奥村保	岐阜市加納鉄砲町1-17	岐阜県公民館連合会長
久世正弘	大垣市中川町1丁目	岐阜県中学校長会長
坂倉又吉	羽島市竹鼻町2733	千代菊(株)取締役社長
田中利雄	岐阜市上川手115	岐阜県小学校長会長
玉田幸人	岐阜市萱場町中起599-11	岐阜日日新聞社専務取締役
○土屋斉	大垣市荒尾町1077	(株)大垣共立銀行取締役頭取
野村忠夫	稲沢市下津町東国府34	岐阜大学教育学部教授
◎林金雄	各務原市那加雲雀町37	大垣女子短期大学教授
深井重三郎	岐阜市鏡島菖蒲池1621	岐阜県私立中学高等学校協会会長
村井実	岐阜市日光町3-2	岐阜県高等学校長協会会長

4. 入館状況

今年度の入館者総数は101,938人で前年度に引き続き10万人の大台を突破した。開館日数は全館ガス燻蒸実施により若干少なく、292日で1日平均の入館者は349人であった。

月別の入館状況は下表のとおりであるが、5月9日、10月及び11月の4ヶ月で全体の約60%を占めている。また1日の入館者が最も多い日は毎年5月の連休中であったが、今年度は秋の特別展期間中の11月5日の2,467人であった。また、5月3日には開館以来60万人を突破し、毎年ほぼ10万

人のペースで進んでいる。

団体入館者についてみると、年間386団体、37,034人で総入館者数の約36%を占め、月別では10月が11,185人で最も多い。

更にこれを県内・外別にみると県内が276団体22,898人で全体の約62%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く約37%を占めた。

特別展の入館状況については、通算開催日数は112日間で60,829人、1日平均にすると543人であった。また、秋の「ふるさとの美濃古陶」展は過去の特別展の最高27,546人を記録した。

(1) 博物館入館者数

月 別	小 中 生	高 大 生	一 般	計	開館日数	1日平均
4月	3,632 ^人	1,242 ^人	3,560 ^人	8,434 ^人	25 ^日	337 ^人
5月	6,654	2,624	7,391	16,669	27	617
6月	1,999	334	3,541	5,874	25	234
7月	1,331	260	2,159	3,750	20	187
8月	3,019	303	4,904	8,226	26	316
9月	3,809	963	8,746	13,518	26	519
10月	11,424	912	5,031	17,367	26	667
11月	6,846	402	5,445	13,693	23	595
12月	182	60	712	954	23	41
1月	759	101	1,818	2,678	23	116
2月	1,043	111	2,432	3,586	23	155
3月	2,530	319	4,340	7,189	25	287
合 計	43,228	8,631	50,079	101,938	292	349

(2) 特別展期間中の入館者数

特 別 展 名	期 間	小 中 生	高 大 生	一 般	計
美 濃 の 絵 馬	56.4.24~56.5.31	8,635 ^人	3,122 ^人	8,930 ^人	20,687 ^人
御岳山は生きている	56.7.21~56.9.6	4,499	973	7,124	12,596
ふるさとの美濃古陶	56.10.9~56.11.23	16,186	2,205	9,155	27,546
合 計		29,320	6,300	25,209	60,829

Ⅲ 昭和56年度 事業概要

1. 常設展

(1) 刀剣コーナー

第一期	第二期	第三期	第四期
太刀 銘濃州住兼吉 応永廿七年三月日	刀 金象嵌銘江	刀 銘兼光	刀 無銘伝志津
刀 銘兼元	刀 無銘伝包永	短刀 銘濃州関住兼房 天正〇年〇月吉日	刀 金象嵌銘兼次
刀 銘濃州住兼光	短刀 銘来国光	刀 銘兼先	短刀 銘和泉守兼定
刀 銘濃州住兼元	脇指 銘平安城住吉次	槍 銘関住兼付作	刀 銘濃州関住兼元
脇指 銘美濃守藤原寿命	刀 銘備州長船祐定	刀 銘兼元	脇指 銘兼氏
短刀 銘相模守政常入道	刀 銘備州長船住助真 文久元年八月日	脇指 銘濃州住寿命	刀 銘越前国兼植
槍 銘美濃守藤原政常	刀 金象嵌銘正宗	脇指 銘貞(宗)	脇指 銘関住兼常 寛政二年八月日
薙刀 銘平安城住則定	刀 銘濃州赤坂住兼元	刀 銘肥前国忠吉	太刀 銘助真

2. 貸しギャラリー

(1) 岐阜県美術館いざない展

昭和57年11月3日に開館する県美術館の収蔵美術品の一部を紹介する「いざない展」を開催した。

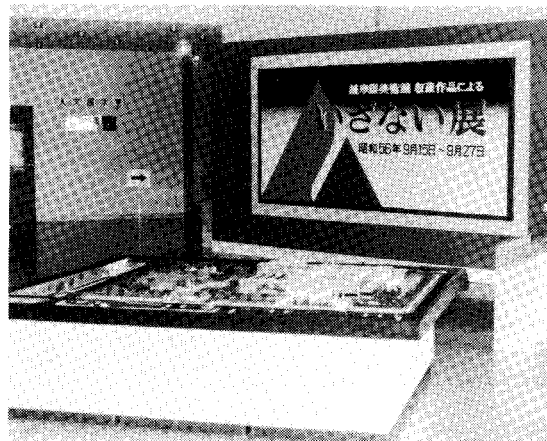
期日：昭和56年9月15日～9月27日

開幕に先だって当日午前9時からテーブルカット。

開幕を待っていた人たちがさっそく展示品を食い入るように観賞していた。

会場には、県内作家20人の作品を中心に川合玉堂の「深林宿降雪」・県が2億7千万円で購入したルノアールの「泉」など有名な作品も含め、絵画25点、彫刻5点の計30点が展示された。

会場ロビーには、県立岐南工高の建築研究会の生徒が製作した県美術館の模型も展示された。



(2) 第8回 美濃陶芸展

会期 6月10日～6月20日

主催 美濃陶芸協会・中日新聞社

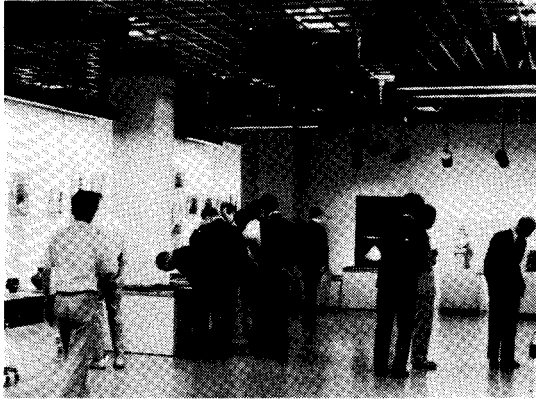


美濃焼の集大成的内容の第8回美濃陶芸展を共催で行った。人間国宝・荒川豊蔵氏の作品など、同協会に所属する作家69人が丹精した作品90点近くを展示した。

陶芸愛好家達は、各作品に目を奪われくい入るように観賞していた。

賛助出品「志野茶碗」荒川豊蔵（国重要無形文化財）「萌黄地金欄水指」加藤幸兵衛（岐阜県無形文化財）（57.4.11 逝去）

3. 移 動 展



(触察資料展の会場)

岐阜県博物館の収蔵資料を、広く県民に紹介し、郷土文化への関心を高めていただくため、去年は飛騨の高山市で、考古資料を主にした「だれにでも自由にさわられる触察資料」の移動展を実施した。これに引続いて、今回は、自然分野の「帰化植物展」を加え、いっそう内容豊かなものとして、東濃の多治見市で開催した。

会 期 昭和56年6月27日～7月3日
会 場 多治見市文化会館 A展示室
入 場 無 料
共 催 多治見市教育委員会
入場者 1,816人

展示内容

(1) だれにでも自由にさわられる触察資料展

考古資料 30点(打製石斧、弓矢、縄文土器、弥生土器、埴輪、その他)
剝製標本 5点(さる、きつね、いたち、他)

(2) 身近な自然界の変化がわかる帰化植物展

「帰化植物とは」「戦後派の帰化植物」「日本のものと比べてみよう」「帰化植物はなぜふえる」等の展示内容を、実物標本120点、写真30枚、図表10点、解説パネル12点で展示構成し、博物館の資料収集、調査研究成果の一部を紹介した。本館での資料紹介展をそのまま、移動展にしたもので、今後も各地で開催する予定である。



(視覚障害者用の点字解説を読まれる入場者)

《入場者の感想文》

身体障害者点字感想文より

◎サルやキツネのはく製に触れて、はじめてその本体を知りました。恥ずかしいのですが、盲人とはそんなものなのです。今日ここへ来て、ほんとうによかったと思います。ありがとうございました。
◎ラジオやテレビでは、石器時代や弥生時代の土器が紹介されて耳馴れています、実際に手でさぐってみたのは、今日が初めてです。係の方も、親切に教えてくださいました。想像とちがって、縄文・弥生時代における農民の苦心、さらに万事がよくも考えた道具を使用し、生活された有様をおもうと、文化人といわれる現代人は、幸せであり、ありがたさを感じました。

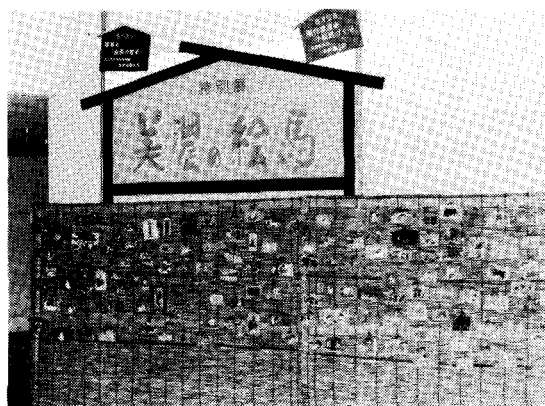
(以上ライン盲人会のお二方より)

(帰化植物展の会場)



4. 特別展

(1) 美濃の絵馬 4月24日～5月31日



人間にとって悩みごととはつきないものだが、その解消を祈願する手段として神仏に奉納されたものの一つに絵馬がある。絵馬の起源は古代にまで溯るといわれるが、その伝統は今日でも交通安全や入試合格の祈願などに脈々と受け継がれている。

ところで、本県においては絵馬の大半が未調査のまま放置されてきた。従って長い年月の間に風雨にさらされるなどして破損、滅失したものも少なくなかったであろう。こうした状況において本展を開催するにあたっては、まず絵馬に関するデータを可能な限り集結しなければならなかった。展示ではこれらの中から比較的保存状態の良いものを選んで絵馬に表現された時代風俗と美及び、祈願の諸相を紹介することで絵馬が美術のみでなく、歴史・民俗資料としても貴重な文化財であることの認識を高めることをねらいとした。従って大絵馬・小絵馬・参考資料の三部構成にし、絵馬が総体的に把握できるように努めた。

大絵馬は絵馬の推移がわかるように時代性を考慮して画題別にまとめた。まず原初の図柄である馬図をはじめに、変形絵馬も加えて11分類した。美濃地方でも画題は一とおりそろってはいるものの、関東や関西の絵馬どころに一般的に見られる祈願図や生業・風俗図などは種類・数量ともごく限られていた。をもあれこれによって絵馬の図柄は馬だけという一般的通念を打ち破り、画題の多様性を示すことができた。また、大和村明建神社の繫馬図や岩村町八幡・武並両神社の文化5年銘



の牽馬図などは狩野派の画家の手によるだけあって県指定のものに比べても決して見劣りのしないすぐれた作品であった。

これに対し小絵馬は奉納社寺と図柄とに一定の図式がみられる場合もあるので祠堂別に展示してみた。それは、合計6ヵ所になるが、このうち大垣市赤坂の明星輪寺の絵馬は酒・煙草・博奕・浮気などをやめるようにと誓ったものである。そこには“但し5ヵ年間”などと期間を明示したものもあり、人間の本音が明らかに現れていて実に愉快であった。また、関市富町の小野庚申堂の絵馬は皮膚病の癬の平癒を願うものだが、ナマズの語呂合わせで鯰絵である。いずれも奉納者自身など一般民衆が描いたもので、稚拙だがバラエティに富んでおり、民画の特色を如実に示していた。

こうした大絵馬・小絵馬の対比によって大絵馬のもつ美術性と小絵馬のもつ民間信仰性をより明確に示すこともできた。

全国各地の参考資料は、県内では全く見られないものも多く、祈願内容、即ち絵解きの面白さが観覧者の興味を誘った。更に展示室入口には県内外の社寺で販売授与されている現在の絵馬も展示した。会期中に開催された絵馬研究の第一人者である国立歴史民俗博物館・岩井宏実先生による講演会、並びに伊勢絵馬師安田識人氏による製作実演会は展示を理解する上で効果的であった。

本展を契機に明建神社の繫馬図を県指定文化財にしようとの動き、岩村・明両町での絵馬修復保存の動きなどが進められている。これらは本展の意図が着実に広がりつつあることを示す証拠であろう。

出品大絵馬一覽

No	名 称	奉納年代	寸 法 縦×横(cm)	所 在 地
	本来の絵馬			
1	繫馬 (一対)	慶長14年 (1609)	58×85	上岐市 妻木八幡神社
2	〃	寛文8年 (1668)	108×141	大和村 明建神社
3	〃	元治元年 (1864)	108×147	岩村町 八幡神社
4	〃	天保12年 (1841)	73×99	八幡町 小野八幡神社
5	〃	延宝4年 (1676)	93×137	明智町 八王子神社
6	〃	文化10年 (1813)	77×181	養老町 船付八幡神社
7	〃	元治元年 (1864)	119×147	岩村町 武並神社
8	牽馬	寛文4年 (1664)	95×122	久瀬村 小津白山神社
9	〃	文化5年 (1808)	100×143	岩村町 武並神社
10	〃	〃	99×142	〃 八幡神社
11	群馬	天保15年 (1844)	100×256	養老町 押越八幡神社
	ひろがる画題 (武者絵)			
12	羅生門	正徳6年 (1716)	115×171	明智町 八王子神社
13	川中島の合戦	〃	98×107	養老町 押越八幡神社
14	鶴退治	〃	55×100	〃 〃
15	長反橋の合戦	享保4年 (1719)	79×112	明智町 八王子神社
16	武者絵	宝暦2年 (1752)	118×130	七宗町 観音寺
17	武者絵	寛政11年 (1799)	110×133	武儀町 日竜峯寺
18	弁慶と牛若丸	安政6年 (1859)	92×136	久瀬村 小津白山神社
19	合戦図		96×119	伊自良村 甘南美寺
20	直実と敦盛		88×134	加子母村 大杉地蔵堂
21	巴御前		87×123	〃 〃
22	合戦図		73×108	八幡町 小野八幡神社
	(歌仙絵)			
23	三十六歌仙	寛永16年 (1639)	46×32	八幡町 小野八幡神社
24	六歌仙	嘉永6年 (1853)	45×79	養老町 金刀比羅神社
	(芸能・娯楽)			
25	高砂	延宝4年 (1676)	112×152	明智町 八王子神社
26	狂言	貞享5年 (1688)	103×160	大垣市 明星輪寺
27	照手姫	安永6年 (1777)	156×138	〃 〃
28	常盤御前		88×134	加子母村 大杉地蔵堂
29	熊谷陣屋	安政5年 (1858)	50×99	福岡町 下野庚申堂
30	仁木弾正 唐子群遊	慶応元年 (1865)	112×190 98×151	加子母村 大杉地蔵堂 七宝町 神淵神社
	(祈願・祭礼)			
32	甘南美寺境内	明治20年 (1887)	40×57	伊自良村 甘南美寺
33	拝み		29×51	大垣市 明星輪寺
34	巡礼	明治26年 (1893)	106×182	八幡町 楊柳寺
35	観音礼拝		150×91	谷汲村 華嚴寺
36	観音御利益 神幸	明治41年 (1908)	78×102 54×102	武儀町 日竜峯寺 大垣市 久瀬川神社
	(物語)			
38	七福神園遊	貞享元年 (1684)	84×105	岩村町 八幡神社
39	布袋		46×65	御嵩町 願興寺
40	浦島太郎	正徳5年 (1715)	51×70	大垣市 明星輪寺
41	小狐丸	元文4年 (1739)	80×102	久瀬村 小津白山神社
42	橋上の竜	宝暦2年 (1752)	81×108	岩村町 桜稻荷神社

No.	名 称	奉納年代	寸法 縦×横(cm)	所 在 地
43	神功皇后 (学問・芸道)	明和8年(1771)	75×91	岩村町 八幡神社
44	立花	弘化2年(1845)	137×91	武儀町 日竜峯寺
45	算額	元治2年(1865)	57×225	大垣市 明星輪寺
46	〃 (生業・風俗)	江戸末期	53×105	上石津町 湯葉神社
47	渡海船	貞享2年(1685)	138×173	美濃市 洲原神社
48	火消組出初め	明治21年(1888)	134×225	谷汲村 華嚴寺
49	四季農耕	明治初期	64×99	福岡町 柳山神社
50	道中		39×68	八百津町 久田見薬師堂
51	美人 (近代戦役)		64×43	大垣市 明星輪寺
52	第三師団	明治22年(1889)	55×90	伊白良村 甘南美寺
53	陸海軍連合大演習	明治25年(1892)	73×97	〃 〃
54	日清戦争 (花鳥・動物)	明治28年(1895)	128×213	武儀町 日竜峯寺
55	松に鳩	寛文8年(1668)	96×118	八幡町 小野八幡神社
56	竹に虎	〃	72×93	〃 慈恩寺
57	樹上鷹	寛文11年(1671)	113×152	岩村町 八幡神社
58	群鹿	延宝4年(1676)	109×149	明智町 八王子神社
59	白鷹	貞享5年(1688)	45×74	〃 〃
60	ミサキ狐	文化5年(1808)	49×75	岩村町 桜稻荷神社
61	花鳥	天保12年(1841)	44×62	八百津町 久田見薬師堂
62	日の出鶴	弘化元年(1844)	102×143	岩村町 八幡神社
63	鴛鴦		37×57	養老町 金刀比羅神社
64	鯉		37×57	〃 〃
変わった絵馬				
65	舞踊(高浮彫)	天文(室町末期)	48×198	谷汲村 横藏寺
66	俳句(扇面形)	貞享5年(1688)	21×43	大垣市 明星輪寺
67	三十三間堂通し矢	元禄12年(1699)	91×50	〃 〃
68	不明(華鬘形)	享保2年(1717)	26×31	〃 〃
69	菅原伝授手習鑑(押絵)	天保15年(1844)	45×100	養老町 押越八幡神社
70	的	嘉永6年(1853)	90×46	八幡町 小野八幡神社
71	塗師道具	安政6年(1859)	44×41	大垣市 明星輪寺
72	乗鶴職人(漆喰)	明治7年(1874)	87×106	武儀町 日竜峯寺
73	剣	明治36年(1903)	92×40	八幡町 小野八幡神社
74	経巻		35×132	福岡町 下野庚申堂
75	「心」(穴あき銭)		31×42	八幡町 戒仏薬師堂
76	繭額	昭和5年(1930)	90×100	武儀町 日竜峯寺

出品小絵馬所在地一覧

No.	所 在 地	画 題	No.	所 在 地	画 題
1	大垣市 明星輪寺	「心」に錠 ほか(断ち)	4	八幡町 楊柳町	二股大根・「心」に錠ほか
2	関市 小野庚申堂	鯨・猿	5	八幡町 戒仏薬師堂	船・蛸ほか
3	美並村 星宮神社	左 鎌	6	福岡町 下野庚申堂	拝み・鶴・樹と姥ほか

参考資料 絵解き小絵馬 授与絵馬(資料提供一伊勢絵馬師 安田識人)

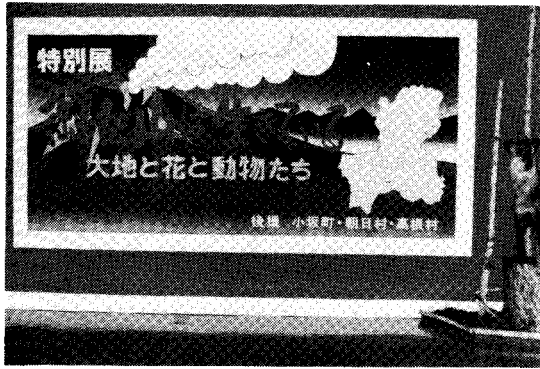
(2) 御岳山は生きています

7月21日～9月6日

岐阜県博物館の特別展ではじめて県下の地域の自然をとりあげたテーマである。折りしも1979年秋には有史以来の噴火がおこって一躍話題になった。第四紀の代表的な火山であり、そこに生きる動植物も特徴的な分布を示している。そういった御岳山地域の自然を統合的に紹介して、自然環境への関心と理解を深め、あわせて「みどりの連帯社会」の基盤づくりをめざすことを目標にしたものである。

今回からは展示資料の収集などの準備作業を前年度から実施し、動植物の資料や、噴火後1年たった火口付近の状況や噴出物などの地学資料収集を前年度中にできるようになったことが内容の充実を前進させた。

またこの特別展の開催準備にあたっては小坂町、朝日村、高根村と地元3ヶ町村の後援を得ることができて地域との密接な連携のもとに進行した点も大きな特徴といえよう。



《展示構成の概要》

導入展示として1979年の御岳火山の噴火記録をあげた。偶然撮影された写真により10月28日早朝の噴火開始から1月間の変化、またその前後の時期の状況、頂上付近に堆積した火山灰や放出岩塊など紹介した。

続いていくつかのトピックをとりあげてさらに関心を深めるようにした。それらは、岐阜市からみつかった御岳火山の軽石のこと、北のふもと高根村からみつかった石器などおもなものである。

次に大昔の環境をさぐると題して高根村内ヶ谷

湖成層中からみつかった花粉や珪藻の化石によって御岳火山の生成途中の当時の環境を知ることができることを写真や図・実物などによって紹介した。

さらに御岳山地域の自然のおいたちに進み、この地域が中生代中ごろまでは海であったこと、中生代末には陸上の火山活動が盛んであったこと、そのあとで銅・鉛・亜鉛などを含む鉱床ができたこと、第三紀末から第四紀中ごろにかけて現在の御岳山に先だつ火山活動がこの地域で何度かおこっていたことを噴出物や図などで簡潔に展示した。

そして中心の一つとなる御岳山の生成については10数万年前にはじまる古期御岳の活動、8万年前の新期火山の形成などを主要な噴出物（溶岩、軽石などの実物資料）や図写真などによって解説した。

できあがった御岳火山(3,063m)は本州中部の独立峰であるため、植物の垂直分布が典型的に観察できることをいくつかの面から紹介した。1,500m近くまでの山ろくにみられる植物の四季による変化を写真・実物標本で展示した。

その上の1,500m～2,500mの間にみられる常緑針葉樹林の特徴を森林限界まで追跡し、林内の植物についても写真・実物標本によって解説した。

山頂部の高山植物については由来から現在の特産種までを実物・写真・図などにより紹介した。植物分布の総まとめを大パネルによって展示した。

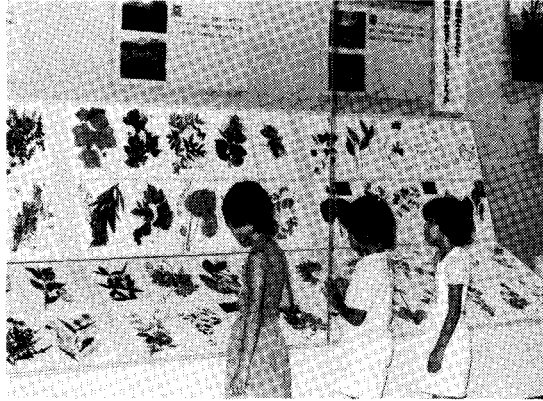
御岳山地域の動物たちについては哺乳動物、野鳥、昆虫にしぼって展示した。哺乳動物のうち大型のものは足跡や生態写真を含めて実物標本を展示した。



鳥類については高さによるすみわけを中心にして実物標本27点を中心にして紹介した。

昆虫ではチョウ、甲足、ガ類について、特に熱心な収集家からオンタケクロヨトウ、クモマナナカミキリなど、多くの貴重な標本の提供をうけて充実した資料を展示することができた。

その他、展示室の中央部空間を利用して、シラカンバ林と野鳥のジオラマ、かつて食糧として利



用されたワラビ粉作りの用具（現在県指定の文化財）、簡易展示板による噴火関係資料や帰化植物など腊葉標本なども展示した。

なお別に学習室では御岳山1979年の噴火を示す航空写真を展示し普段みられない詳細な状況が紹介できた。

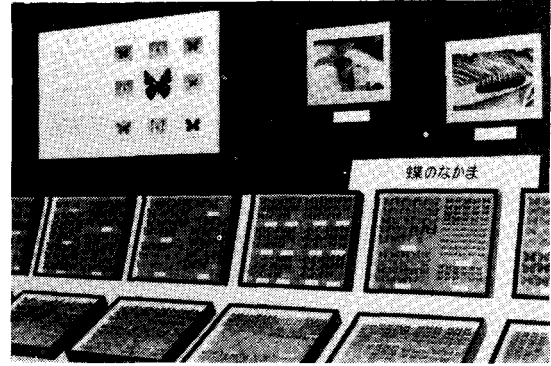
展示資料数は次のとおりであった。

チョウ類	……………	70種	…	1,185点
甲虫類	……………	66種	…	785点
鳥類	……………	23種	…	27点
蛾類	……………	24種	…	540点
哺乳類	……………	14種	…	15点
高山植物	……………			60点
帰化植物	……………			63点
常緑針葉樹林の世界	……………	47種		
山ろくの四季をいろどる植物	……………	54種		
木曾五木など	……………	11種		
噴火写真	……………			39葉
火山灰などの噴火物	……………			8点
基盤の岩石・鉱石	……………			16点
放散虫など化石など	……………			22点
御岳火山溶岩など	……………			17点

《入館状況》

岐阜・中濃地域からはなれた御岳山という山地把をテーマにとりあげ、しかも内容的にも派手な部分の少ないだけに一般の利用が心配されたが、前年度の世界の貝を上まわる13,000名が来館し、盛況裡におわることができた。

期間中8月17日には御岳火山の地質の研究で、現役そうそうたる講師（富山大小林武彦助教授）を迎えての「御岳火山、その生いたちと噴火」と題する講演会を開催したが多数の熱心な市民が参集して盛況であった。



「現地植物観察会 講師・当館学芸員」を催した。

今回の特別展を直接野外の自然に結びつける最初の普及行事を実施した。たゞ残念ながら自然全体をまとめた内容の観察会まで至らず、御岳山ろくの植物分布の特徴を中心に行った。前日から家族連れから女子大生まで40名が濁河温泉の宿舎に集合して前夜のオリエンテーションから当日の観察コースでの植物担当学芸員による詳しい指導まで、「楽しく実のある2日間の観察会であった」とは参加者の感想である。



(3) ふるさとの美濃古陶

10月9日～11月23日



(特別展タイトルパネルと窯用具の展示、背景)
は連房式登り窯をあしらう。

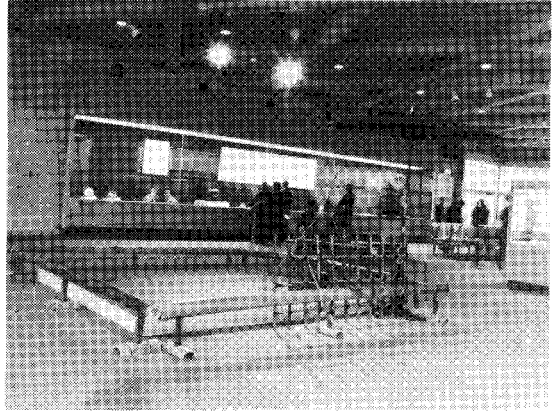
岐阜県の東部(上岐・瑞浪・多治見・可児市)は美濃焼発祥の地である。この地が美濃焼の地として歴史上に位置づけられるのは桃山時代の千利休、古田織部等の茶人に負うところである。美濃焼は隣接する瀬戸(愛知県瀬戸市)の影響を受けつつ、独自の境地を開拓したもので、日本陶芸史上でも最高位に評価されている。

当特別展はこの岐阜県の代表的工芸品である美濃焼を美術的視点と歴史的視点を経緯としてその全体像を紹介することを意図した。

展示は桃山時代の黄瀬戸・志野・織部を中心として、それ以前に瀬戸黒・山茶碗・それ以降に御深井・美濃伊賀・美濃唐津を配した。展示資料は完品を主とし、各陶器の性格、機能性を考慮した。例えば、志野については茶碗を中心とする。織部についてはその奔放性にかんがみ変化ある絵柄と器形を主とした。また全体を通しては桃山期の陶器の作域がわかるように心がけた。

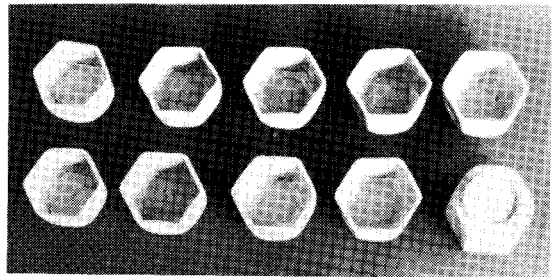
この展示を鑑賞する補助手段として他に、窯用具と絵柄の展示を行った。窯用具は焼成のおり、窯内で使用する諸用具で、窯用具そのものを展示するとともに、焼成方法の変遷を展示することを意図した。絵柄は展示の中心となっている資料に見られない絵柄や、美濃焼の鑑賞に役立つ図柄を展示した。展示資料は後述の団体と岐阜県内在住の個人所蔵者の出品による。

展示会場は黄瀬戸・志野・織部と山茶碗・御深井・美濃伊賀等の皿コーナーに区分し、それぞれのコーナーパネルと年表、古窯の写真(4点)を配し、会場内に野点の席を設けた。



(展示会場風景)

特別展開催中の人館者は27,546人であった。この数は岐阜県博物館で開催した特別展の中では最高である。人館者には陶芸作家、陶器研究者、陶器の愛好家が多く数えられた。展示資料中には、はじめて公開された資料も少なくなかった。



(黄瀬戸・ぐい呑)

特別展開催期間中の催し物は講演会と野焼きによる縄文土器づくりを行った。講演会は美濃陶芸協会会長の加藤卓男氏による「ペルシア陶器と織部」であった。ペルシア陶器と織部の関連を海外における氏の調査結果を紹介しながらの講演は、聴衆に深い示唆を与え好評であった。内容深い講演会とは別の意味で関心が高かったのが武馬正敏氏を講師に迎えた体験学習会「野焼き」であった。成形と焼成の行程を2日に分けて行った。参加者は始終真剣なまなざしで完成にいそしんだ。焼成中における破損もなく参加者全員が自己の作品を手にすることができた。

出 品 目 録

番号	資 料 名	点数	番号	資 料 名	点数	番号	資 料 名	点数
1	黄瀬戸花文茶碗	1点	35	志野萩文平鉢	1点	69	織部獅子鈕香炉	1点
2	かわり黄瀬戸茶碗	1点	36	志野芦文大皿	1点	70	織部梅花文ふり出し	1点
3	黄瀬戸筒茶碗	1点	37	志野竹文皿志	5点	71	織部耳付ふり出し	1点
4	黄瀬戸胴紐茶碗	1点	38	志野芦蔦文德利	1点	72	織部ふり出し	1点
5	黄瀬戸皿	1点	39	織部筒茶碗	1点	73	織部水注	1点
6	黄瀬戸菊形皿	1点	40	黒織部沓茶碗	1点	74	織部水注	1点
7	黄瀬戸向付	1点	41	織部沓茶碗	1点	75	織部德利	1点
8	黄瀬戸菖蒲文鉦鉢	1点	42	黒織部茶碗	1点	76	織部蔓草文	1点
9	黄瀬戸桐文鉦鉢	1点	43	黒織部柴垣文筒茶碗	1点	77	陶製煙管	5点
10	黄瀬戸梅花文鉦鉢	1点	44	黒織部沓茶碗	1点	78	総織部青海波文硯	1点
11	黄瀬戸獅子香炉	1点	45	赤織部茶碗	1点	79	水滴	9点
12	黄瀬戸香炉	10点	46	赤織部茶碗	1点	80	南蛮人燭台	1点
13	黄瀬戸六角ぐい呑	1点	47	織部茶碗	1点	81	南蛮人燭台南	1点
14	黄瀬戸角形大花瓶	1点	48	織部四季文茶碗	1点	82	南蛮人燭台	1点
15	轆轤用黄瀬戸手水桶	1点	49	織部草花文茶碗	1点	83	山茶碗	1点
16	黄瀬戸片口	1点	50	赤織部梅花文向付	5点	84	山茶碗	1点
17	志野竹ノ子筒茶碗	1点	51	織部四方筒向付	5点	85	山茶碗	1点
18	赤志野茶碗	1点	52	絵織部鉄絵筒向付	5点	86	笠原鉢	1点
19	志野刷目茶碗	1点	53	織部向付	5点	87	笠原鉢	1点
20	志野亀甲文茶碗	1点	54	織部平向付	5点	88	瀬戸黒筒茶碗	1点
21	志野沓茶碗	1点	55	織部向付	5点	89	美濃伊賀花瓶	1点
22	志野茶碗	1点	56	織部四方平鉢	1点	90	美濃唐津花生	1点
23	紅志野茶碗	1点	57	織部山文水注	1点	91	美濃伊賀花瓶	1点
24	志野向付	5点	58	織部水注	1点	92	美濃伊賀花生	1点
25	鼠志野芦文向付	5点	59	青織部文字入皿	1点	93	御深井水指	1点
26	絵志野向付	5点	60	織部扇面蓋物	1点	94	壺	1点
27	鼠志野芦雁文額皿	1点	61	織部算木手花生	1点	95	狛犬	1対
28	鼠志野額皿	1点	62	織部茶入	1点	96	狛犬	1対
29	鼠志野絵鉢	1点	63	織部茶入	1点	97	資料 美濃伊賀水指	1点
30	志野織部獅子文大鉢	1点	64	織部はじき香合	1点	98	資料 美濃伊賀水指	1点
31	絵志野大平鉢	1点	65	織部香合	1点	99	資料 絵柄	30点
32	絵志野大鉢	1点	66	黒織部弾香合	1点	100	資料 窯用具	50点
33	志野深鉢	1点	67	織部香合	1点			
34	志野平鉢	1点	68	織部亀香合	1点			

出品者

東京国立博物館

五島美術館

土岐市美濃陶磁歴史館

梅沢記念館

徳川美術館

県立多治見工業高校

岐阜県陶磁器陳列館

岐阜市

岐阜県博物館

愛知県陶磁資料館

下石陶磁器工業共同組合

その他（個人）

5. 資料紹介

(1) ワラと暮らし 12月15日～1月31日



米づくりが生業の中心であった農家にとってワラは副産物として容易に入手できた。ワラは弾力性があり、加工しやすく、しかも保温性・通気性にすぐれている。人々はこうした特性を巧みに生かしてワラを生活の中に利用してきた。農家では主に冬の農閑期に家族が使うゾウリ・ワラジ・ミノなどを作るのが常であった。しかしながら戦後における生活の近代化、道具の機械製品化などにより、ワラの民具は減少の一途をたどり、それに代わってビニールやゴム製品が一般化した。そして現在ではシメナワなどごく一部のものにしか見られなくなっている。

そこで、この資料紹介ではワラが生活の中でどのように利用されてきたかを認識してもらうこと



をねらいとした。ところで民具のあり方は自然条件などの相違により地域によって異なる。それで展示資料は、博物館の所在する関市周辺で採集されたものに限定し、それによって当地でのワラと生活とのかかわりを浮き彫りにしようとした。

展示では、ワラの民具をはき物・着物・家具・生産用具・運搬具・信仰用具とに分類し、これに

「ワラ仕事の準備」を加え、全体を7コーナーで構成した。そして製作用具、及び、使用状況を示す写真もできるだけ展示し、民具の理解が深まるようにした。日よけ用のセナカミノについては参考資料として県内各地のものも展示し、そのバラエティーを示した。これは民具研究家脇田雅彦氏から借用したものである。

民具資料の少ない当館にとってはこうした企画を進めるにあたり、展示をよりよいものにするためにも積極的に資料収集を図る必要がある。

なお会期中の12月20日には体験学習会「しめなわつくり」を開催したが、時機を得た企画であったので約40人もの参加者を集め、好評を博した。

展 示 資 料 目 録

※地名は採集地

コーナー	資 料	コーナー	資 料	コーナー	資 料	コーナー	資 料
ワラ仕事の準備	ワラ ツチ ワラ打ち石 ムシロ	着 物 (岐阜県内) 各地のセ ナカミノ	久瀬村小津 根尾村東板屋 美濃市松森 八幡町西乙原 白川町小川 中津川市阿木 蛭川村中野方 萩原町富田 高山市	家 具	ウスハキホウキ タワシ	生産用具	ナワない機 ムシロ編み機 コモ編み機 タボ編み機
はき物	ゾウリ編み台 ゾウリ ワラジ アシナカ ウマダツ		イズミ(嬰兒籠) イズミ(飯櫃入) ナベシキ	生産用具	ナワ(2種) ホナエ スガイ ムシロ オウビク タワラ サンダワラ コモ カマス タボ〔炭〕		運搬用具
着 物	ヨロイミノ セナカミノ コシミノ	家 具				信仰用具	シメナワ(8種) 初観音の飾り物
						補助資料	： 稲米 玄米 セナカミノ分布図ほか

(2) 県内のほ乳動物

2月11日～4月4日

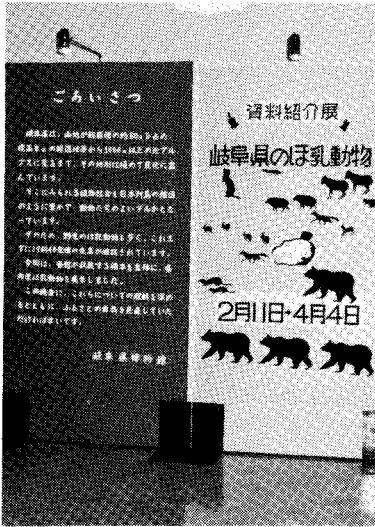
岐阜県は、総面積の約80%を山地が占め、標高0mの低湿地帯から3,000m以上の北アルプスに至るまで、その地形は極めて変化に富んでいる。

また、そこに見られる植物社会も日本

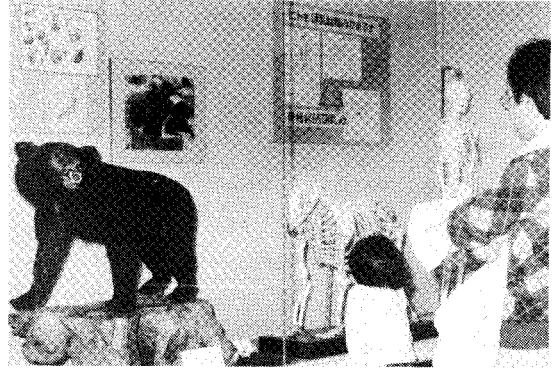
列島の縮図のように豊かで、動物たちのよすみかとなっている。そのため、野生のほ乳動物も多く、これまでに17科40余種の生息が確認されている。そこで、これらに対する県民の関心を高めるとともに、ほ乳動物についての基礎的な知識の普及につとめるため、この資料紹介展を企画した。

小形のホンシュウヒミズ・ホンドヒメネズミから大形のホンシュウジカ・キソウマなどまで、それらを初めて見る人たちは、実に興味深げであった。最近、海津部や羽島市付近で繁殖しているヌートリア、恵那郡付近に分布を広げているハクビシン、また、飛騨地方に見られるホンシュウモモンガや白色のホンドオコジョなどは、人気の的であった。

会期中に行ったアンケート調査から、入観者の声を拾ってみる。



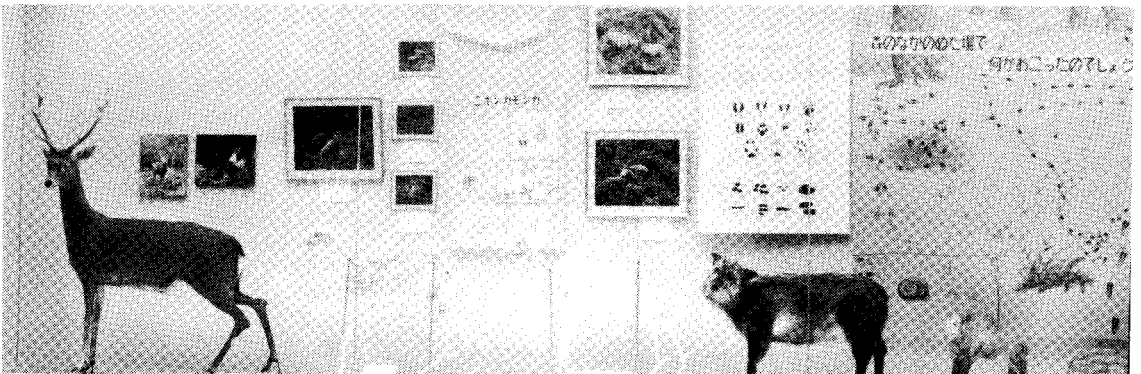
- ・名前だけしか知らなかった動物の実物が見られてよかった。
- ・岐阜県には、小さな動物から大きな動物までたくさん生息していることがわかった。
- ・動物の食べ物や足跡など、生活のようすがよくわかった。
- ・このような動物たちは、現在どのような状況にあるのだろうか知りたい。
- ・ふるさとを見直し、今までと違った見方をするよい機会となった。



入観者は、小学生や子供をつれた家族が多かったが、これらの声にもあるとおり、ふるさとの自然に対する認識を、かなり深めてもらうことができたのではないかと考える。

展示点数

- ほ乳動物剥製標本 35点
- ほ乳動物液浸標本 10点
- 生態写真 動物 24点
- 植物 3点
- 解説パネル 12点



6. 資料調査収集活動

(1) 人文部門

	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	その他	(寄贈物)			
考 古	1,078	187	44	(1,098)	607	175	2,091
歴 史	685	29	101	(672)	316	9	1,140
民 俗	534	0	0	(534)	0	0	534
美術・工芸	87	14	0	(80)	264	555	920
計	2,384	230	145	(2,384)	1,187	739	4,685

複製には模型・ジオラマを含む（昭和57年3月31日現在）

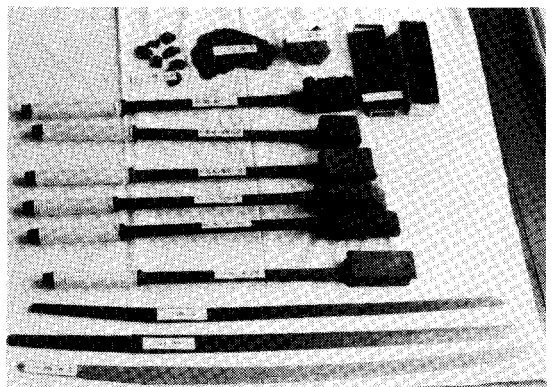
1. 資料寄贈者芳名一覧（敬称略・順不同）

資 料 名	点数	芳 名
刀剣製作工程資料	一式	中田 兼秀
福助土人形ほか	102	谷口 順三
明治初期の教科書及び古文書	52	後藤 孝敏
正法眼蔵第16	1	鷺見 洋
日清韓地図、地券ほか	41	〃
菓箆笥ほか	6	早川 医院
さおばかり一式ほか	6	須田 保信
岐阜今泉学校使用教科書	4	中嶋 八郎
鉢型土器等ほか	14	武馬 正敏
織部四方筒向付	5	
織部四方平鉢	2	
織部山文水注	1	
織部草花文平茶碗	1	
美濃伊賀水指	1	
石 鎌	11	古田 平一郎
中世陶器	1	大野 幸夫
石 皿	1	野中助右エ門

3. 複製資料の製作

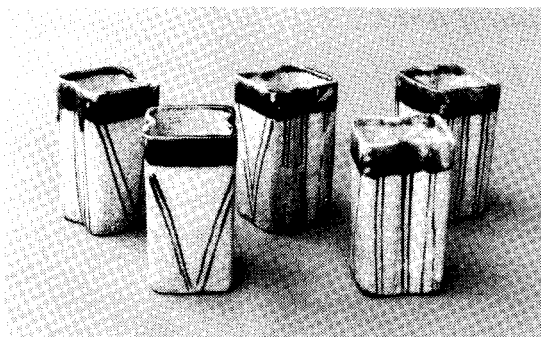
資 料 名	点数
深鉢型土器	5
台付浅鉢型土器	1
円窓付 型土器	1
台付 形土器	1
人面付壺形土器	1
形土器	1
壺形土器	1
山田寺仏鉢佐波里蓋合子椀形	1
駅 鈴	2

（刀剣製作工程資料一覧）



館蔵資料紹介（陶器）

岐阜県博物館で館蔵する陶器は40点である。ここではそのうちの織部五点について紹介する。



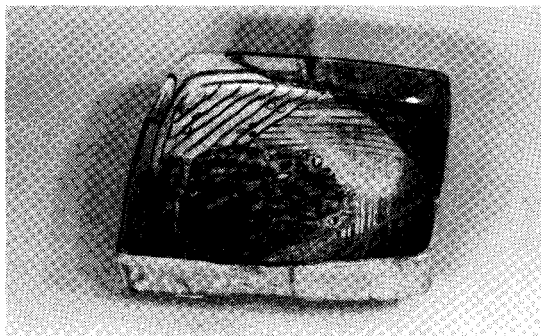
1. 織部四方筒向付（高サ10.5×径5.5cm）

器形と絵柄に特色を持つこの向付は、織部の意匠を十分にそなえている。荒川豊蔵氏の箱書がある。



2. 織部草花文平茶碗（高サ4.2×径15.7cm）

両端を織部特有の緑釉でふちどりし、中央に花をあしらっている。緑釉は茶碗の中央に近くなるほど強くでている。



3. 織部四方平鉢（高サ5.5×径20.0cm）

織部の発色、文様は典型的である。一部に補修が施され、幾分ひずみがある。



4. 織部山文水注（高サ18.0×径8.9cm）

対称的な緑釉の間に絵柄が軽くあしらわれている。蓋はない。



5. 美濃伊賀水指（高サ10.8×径14.9cm）

織部

織部焼は美濃焼の中で、黄瀬戸・志野に次いで創造された作品で、元屋敷（土岐市泉町）に代表される連房式登窯で大量に生産された。大量生産への要求が大窯から連房式登窯への変化であった。この生産様式の変更は、生産される製品の多様化をともなった。食器の増加がそれである。また茶碗も新たに沓形という器形が好んで生産された。茶陶としての志野に対して織部は作域、量、意匠が対称的である。

織部焼は施釉陶器の発展をあとづける資料として重要である。

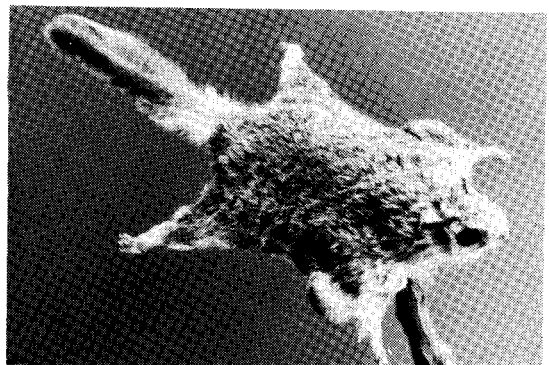
(2) 自然部門

	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	移管・自作 その他	寄 贈 (内 数)			
動 物	15,983	41	173	(7,928)	15	0	16,212
植 物	2,428	25	168	(1,601)	0	0	2,621
岩石・鉱物	1,136	5	71	(376)	20	3	1,235
化 石	1,339	35	19	(807)	48	19	1,460
その他	47	22	143	(15)	0	0	212
計	20,933	128	574	(10,727)	83	22	21,740

複製には模型・ジオラマを含む（昭和57年3月31日現在）

1. 資料寄贈者芳名一覧（敬称略・順不同）

資 料 名	点数	芳 名			
ウニの化石	1	平野 卓未	二枚貝化石（ペルム紀）	3	細野 明德
ホンシュウモモンガへい死体	1	山田 裕次	赤坂産小型貝類化石	2	"
モグラへい死体	1	赤塚 鉄雄	柘榴石	2	達川 長信
海産貝類乾燥標本	979	後藤 常明	蛙目粘土	1	"
海藻標本	32	鳥取県立博物館	標準蘚苔類標本集	50	岩月善之助
マイマイカブリの幼虫	1	宮崎 惇	ドブガイ	2	河口 節郎
マシジミ	12	"	スウエビット	1	益富寿之助
センダイムシクイへい死体	1	"	マイロナイト	1	"
トノサマガエルの白子	1	"	トビへい死体	1	村田 淳
ホンシュウトガリネズミへい死体	1	"	ワニ等標本類	40	加納小学校
オルサトギセル	2	高田 良二	ヌートリアへい死体	1	安藤 豊次
ミカドギセルの幼貝	2	"	トラツグミへい死体	1	西川 裕樹
オウム貝化石	2	井上 潤	ヒメホソアシナガバチの巣	1	交告 その
			ドバトへい死体	1	加藤 博之



資 料 名	点数	芳 名
トラツグミへい死体	1	田中 洋実
アオイガイ乾燥標本	1	渡辺 浩記
マガキ乾燥標本	1	林 忠彦
ヒメソアシナガバチの巣	1	今井かおり
ホンドオコジヨ剥製標本	1	山腰 悟
カブトガニ乾燥標本	1	森崎光三郎
オウムガイ 〃	1	〃
ヒメソアシナガバチの巣	1	大坪己佐子
ツグミへい死体	1	速水 隆夫
〃	1	新藤 史宏
ゴイサギへい死体	1	中島 芳朗

2. 実物資料の購入・複製製作など

資 料 名	点数
石英黄銅鉱他	11
アンモナイト・三葉虫化石他	5
ナウマンゾウ（複製）	1
放散虫（パネル）	2
蘚苔類	100

3. 化石資料の収集

吉城郡上宝村福地地域に分布するシルル、デボン紀層中の動物化石を中心に収集作業を行った。この地域からは近年貝形虫類や放散虫など日本最古の化石（オルドビス紀中～後期、約4億8千万年前）がみつかり、さらに新資料の発見が期待されている。これに対して産出地域の山地の崩壊が年々大きく進んでいる。このため早急に県産資料の確保という面から収集を促進する必要がある。

10月下旬の落葉季をえらんだのであるが例年になく早い寒波のおとずれのため日本海斜面特有の「しぐれ」にみまわれたので、冷雨の中の作業という悪条件のもとで実施した。

それにもかゝらず三葉虫をはじめ四射サンゴなど多数の資料、さらに含化石泥岩ブロックも数10点収集した。

特に涙滴類（ダクチオコナリダ）は日本最初の標本であることが、収集指導にあたった東京大学浜田隆士教授によって確認され、今回の収集化石中の最大の重要資料となったものである。

その他おもな収集資料は次のとおりである

腕足類化石

三葉虫

四射サンゴ・床板サンゴ

4. 常設展示構成充実準備調査

自然展示室1・2各室の展示内容を、最新の調査研究成果をふまえてこれをわかりやすく普及するように各コーナーの内容に関する諸資料の調査を行なっている。展示資料の覧的・量的な充実を期すため、前年度に続いて現地調査、実物・写真・文献等の各資料の収集を行った。各分野の成果の概要は次のとおりである。

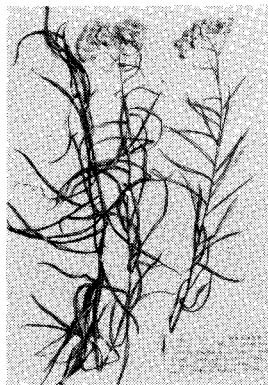
地学分野……………大野郡荘川村・白川村御母衣湖西岸地域の濃飛流紋岩と白亜紀深成岩の調査収集

197～7年間の県下地質文献目録の収集

大野郡高根村内ヶ谷湖成層の調査収集など

動物分野……………乗鞍岳の高山蝶とカミキリムシ、郡上郡高鷲村蛭ヶ野の蝶と蛾、県内のトンボなどの標本の収集及び生態調査

植物分野……………県内各地から、岐阜県の植物分布地理区を特色づける植物標本の収集（日本海要素植物群、スミレ類、アザミ類、ヤマハハコの地理的変異標本など）及び植物生態展示用写真の撮影、生態調査。



7. 教育普及活動

(1) 概 略

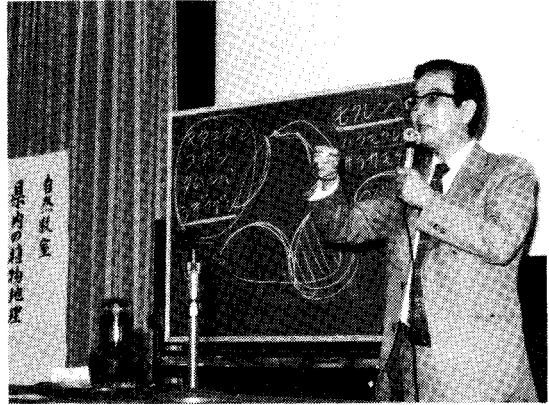
当館は昭和51年5月開館以降、昭和56年4月、60万の観覧者を数えるに至ったが、公立博物館としてより一層市民に気軽に活用してもらうためにも、全館あげて広報活動に努めた。

常設展、特別展、資料紹介展はもちろん、特別展にちなむ講演・映画、スライドの作成上映、体験学習など各種の行事を企画して、市民の博物館への関心を高めたといえよう。

特に、岐阜・美濃教育事務所管内の新規採用教員の研修には、学校教育と博物館の関連を深めるため、「博物館利用の留意点」の冊子を作成配布するなどして研修内容を豊かにしたことは特筆できる。

また、昭和56年度の新規事業として体験学習会の拡充を図り、御岳山麓の植物、昆虫等の現地学習会（宿泊）、縄文土器の製作、野焼きの実演などを企画した。手・足をとおしての体験学習であるだけに、参加者も各層にわたり、楽しい教室が実現できたことは極めて意味深いものであった。

このほか、新聞、ラジオ、テレビ、教育委員会関係の広報媒体を利用して、特別展示、教育普及の各種行事等を紹介していった。



(2) 教育普及活動

①各種事業

月 日	区 別	テ ー マ	講 師	対 象	参加人員	備 考
4・29	自然教室	春のチョウたち・ギフチョウをめぐる	名古屋昆虫博物館長 名和 博 雄	中学生以上	90	御岳山麓 自然体験林 (益田郡小坂町)
5・3	講演会	絵馬の歴史	歴史民俗博教授 歴石 民井 宏	一 般	51	
5・4	自然観察会	百年公園の初夏の植物しらべ	当館学芸員 小野木 三郎	小・中学生	29	
5・5	製作実演会	小絵馬づくり	伊勢田絵馬師 伊勢田 繪馬 師	入館者一般	多数	
6・28	自然教室	古生代の郷土	東浜大田教授 東浜 大田 教授	中学生以上	70	
7・26	体験学習会	日よけ用の背中みのづくり	関市小塚原孝一 関市源光松 関市山培松	小・中学生	23	
8・2	自然観察会	御岳山麓の現地自然観察	当館学芸員 小野木三郎・宮野伸也	小・中学生	41	
8・16	講演会	御岳山一その生い立ちと噴火	富山大学助教授 富山 大林 武彦	一 般	61	
8・23	体験学習会	竹とんぼづくり	竹石原文雄師 竹石 原 文 雄 師	小・中学生	30	
9・23	自然観察会	百年公園の初秋の植物しらべ	当館学芸員 小野木 三郎	小・中学生	33	
10・11 11・22	体験学習会	野焼きによる土器づくり	名古屋考古学会員 名古屋考古学会員 岐水 展正 敬	中学生以上	70	
10・25	自然教室	県内の植物地理	岐大助教授 岐大 助教授 岐大 展正 敬	中学生以上	24	
11・3	講演会	美濃の古陶とベルシャ	日加藤審査員 日加 藤 卓 勇 員	一 般	117	
12・20	体験学習会	しめなわづくり	関市下池村真一 関市久松三郎 大野仁久	小・中学生	50	
3・28	自然観察会	百年公園の早春の植物しらべ	当館学芸員 小野木 三郎	小・中学生	30	

② 日曜映画会

期	間	題	名	観 覧 者 数
1	4月26日～5月31日	ループル美術館・百年公園の動植物・縄文遺跡・刀匠		1,584
2	7月26日～9月6日	御岳火山活動・百年公園の動植物・薬草の沿革 雪国の紙づくり・和ローソク・市原土人形		896
3	10月11日～11月22日	土と炎の芸術・美しき郷土・ふるさとの遊び 白川郷・伝承芸能		2,367
4	3月7日～3月28日	自然を守る・日本ざる・日本のカモシカ		393

③ 各種事業スナップ

★ 自然教室 4月29日(水)

本年度初の教室を名和昆虫博物館長・名和秀雄氏を招いて当館講堂で行った。テーマは「春のチョウたちーギフチョウをめぐる」であった。会場には高校生物クラブ員・中学生・一般の親子づれなど90人余りがつめかけた。

明治16年に益田郡金山町で発見されたギフチョウについて標本を示しながら説明。他のチョウに先がけて早春の野山を飛び回るギフチョウの美しさ、その不思議な生態に触れて「むやみに採集されて近ごろはその数が少なくなったのは本当に惜しい」「子どもは虫と遊び、虫をいじめて生き物の尊さを知る」などと約1時間にわたって話をされた。

★ 製作実演会「小絵馬づくり」 5月5日(火)

特別展「美濃の絵馬」にちなんで、伊勢絵馬師安田識人氏を招いて製作実演会を催した。



講師：名和秀雄（名和昆虫博物館長）



このあと、記録映画「生きものばんざい・春の舞姫・ギフチョウ」を上映し、聴衆を魅了した。

講師：安田識人（伊勢絵馬師）

当日入館者の中からの自由参加の形で行った。参加者に白生地板を配布し、当方で準備したマジック、クレパスで自由に絵馬を描き楽しむという試みであった。

参加者も思わぬ実演会にめぐりあい、盛況であった。準備した白生地板500枚は、すぐ品切れとなり予想以上の反響を呼んだ。

こういった様子を見ると、現在の子どもたちが求めている心のふるさどが、なんであるか暗示しているのではないかと考えさせられる思いがした。

授与絵馬の製作実演はいかにして現在の絵馬が作られていったのかを認識する場にもなったといえよう。

★ 現地自然観察会 8月2日(日)

指導者 小野木三郎・宮野伸也(当館・学芸員)

本年度初めての試みとして、御岳山麓の自然休養林(益田郡小坂町)で、現地自然観察会を企画した。これは、特別展「御岳山は生きている」の関連事業として、現地の自然に直接触れてみて実感を大切に直接学習を意図したものであった。



定員をはるかに越えた41名の参加をみ、宿泊を共にした和気あいの学習をすることができ、今後も企画してほしいとの声も出るほどであった。

参加者の礼状 関市 K子

連日好天気に恵まれ暑さが続きます。昨日列車の連絡も良くて六時半すぎ帰着しました。中略



2日間の学習は実に短く、あっという間に過ぎましたが、あの大自然のなかでの勉強会、本当に参加させていただきよかったと、ただただ感謝の気持ちで一杯です。お天気もよくてすべてに恵まれ、これも御岳さんのおかげでしょうか。

特に先生方のお骨折りに厚く厚く御礼申し上げます。

(3) 昭和56年度中 刊行物一覧表

	名 称	発行年月日	版・項	部数	備 考	
昭和 56 年 度	岐阜県博物館だより	第14号	56・4・1	B 5 4頁	2,000	
	"	第15号	56・7・1	"	2,000	
	"	第16号	56・10・1	"	2,000	
	岐阜県博物館報	第4号	56・7・1	B 5 23頁	1,500	
	岐阜県博物館調査研究報告	第3号	57・3・31	B 5 56頁	1,000	
	昭和56年度岐阜県博物館催し物案内		56・4・1	B 4	15,000	
	特別展リーフ	美濃の絵馬 御岳山は生きている ふるさとの美濃古陶	56・4・24 56・7・21 56・10・9	B 5 B 6 B 4	21,000 17,000 23,000	
	特別展図録	美濃の絵馬 ふるさとの美濃古陶	56・4・24 56・10・9	B 5 24頁 B 5 44頁	400 300	
	特別展ポスター	美濃の絵馬 御岳山は生きている ふるさとの美濃古陶	56・4・24 56・7・21 56・10・9	B 2 B 2 B 2	1,500 1,500 1,500	
	団体利用の手引		57・3・25	B 5	3,000	
岐阜県産貝類標本総合目録		57・3・10	B 5 40頁	1,500		

8. 博物館・収蔵資料のガス燻蒸消毒

(7月4日～7月11日)

1. はじめに

博物館が収集・保存している資料は貴重な資料ばかりであり、それに必要な温・湿度の維持は資料保管に絶対必要条件といえる。この一定の温・湿度は翻せば害虫及びカビに適した生息条件となる。このことにより県民の貴重な財産を守る上で燻蒸消毒は必要欠くべからざる事業といえる。本年度は昭和53年度に引き続き2回目の燻蒸消毒を実施した。

2. 害虫と薬剤選定

博物館資料を保存するうえでいろいろな障害がある。例えば金属の酸化のような化学的劣化及び昆虫の喰害、カビのような生物的劣化などが大別してある。今回の燻蒸消毒は主にこの生物的劣化を阻止するために行った。

昆虫類の中でシバンムシ科のケブカシバンムシが代表的害虫である。木彫仏像、屏風、その他小型の木質文化財がこの害虫の被害をうけている。また、ラワン材の代表的害虫として広く一般に「ラワンの虫」と呼ばれている、ヒラタキクイムシ科のヒラタキクイムシがある。ラワン・ナラなど広葉樹の辺材を喰害する。当館でも陳列ケースなどに若干の被害が確認された。乾燥動物質を嗜好する害虫にカツオブシムシ科のヒメマルカツオブシムシがいる。これは時には乾燥植物質にも被害を及ぼすことがある。シミ科の昆虫は本の大敵として知られている。特に糊づけした紙類を好み、絹・人絹・スフ類を害する。その他、木材を喰い荒すシロアリ、衣類の害虫で知られるイガ、ホンジラミ、アリ類、ハチ類などがある。

もうひとつの生物的劣化の敵はカビなどの糸状菌類である。書籍などに使用されている糊の変質、繊維製品におけるカビの発生などがある。

これら害虫、カビなどの資料被害を阻止するため、また、博物館の様々な種類の素材に悪影響のない薬剤という観点に基づいて薬剤選定をした。今回使用した薬剤は臭化メチル（殺虫剤）と酸化エチレン（殺菌剤）の混合剤(商品名“エキボン”)を使用した。

(性状は下図1のとおり)

成分	酸化エチレン	13wt %
	臭化メチル	37wt %
分子式	$C_2H_4O + CH_3Br$	
沸点	4.6 °C	
比重	液体	1.62 (0 °C)
	気体	3.02 (0 °C, 空気=1)
爆発範囲	7.5～17.5Vol % (294～686g / m ³)	

図1：薬剤(エキボン)の性状

3. ガス燻蒸消毒の実施

博物館のガス燻蒸実施に当たっては、効果的な燻蒸を実施しなければならない。それには、限られた予算の範囲内及び、日程のなかで、より効果的な実績を上げるべく、別図3～5のように各部屋に基準投薬量に差を設ける方法をとった。

(結果は図6のとおり)

特に、第1収蔵庫、第6収蔵庫及び特別収蔵庫はカビ類の防除をも対象として行った。

(1) 燻蒸時期と期間

① 燻蒸時期

燻蒸時期として7月4日(土)～7月11日(土)を設定したが、次の点を考慮して決定した。

② 蒸剤効果と温度の関係

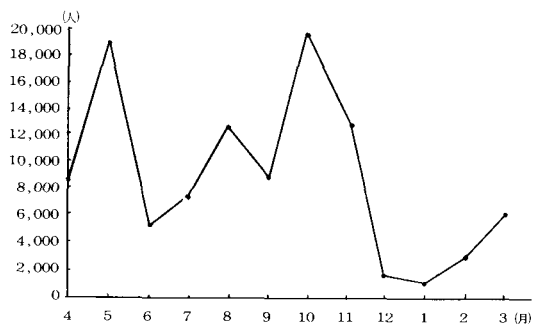
温度が高い時期の方が効果があり、投薬量の節減がはかれる。

③ 薬剤効果と害虫の関係

4月中旬から11月中旬までの期間は害虫の活動が活発になり、呼吸量が多いためガス吸入量が増大するので一層の効果があがる。

④ 入館者との関係

危険防止の観点から入館者の比較的少ない時期が望ましい。(図2参照)



地階平面図

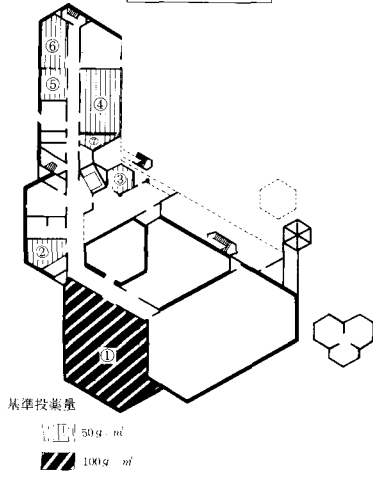


図3：B F部屋別基準投薬量

1階平面図

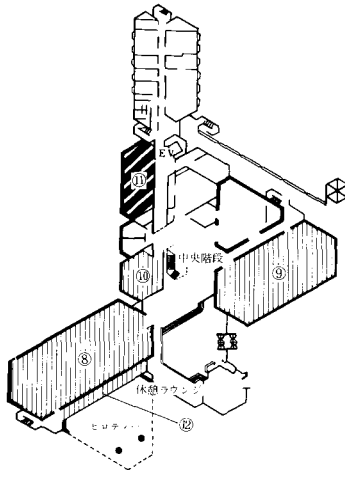


図4：1 F部屋別基準投薬量

2階平面図

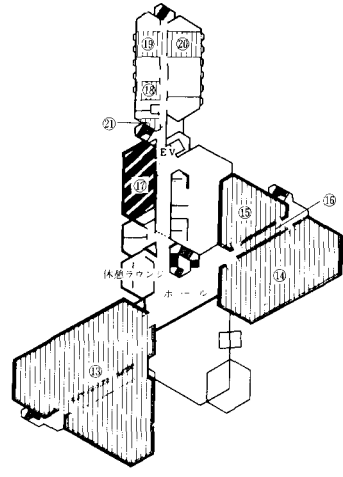


図5：2 F部屋別基準投薬量

燻蒸対象室名等

No.	フロアー	燻蒸対象室名	面積(m ²)	容積(m ³)	ガス量/m ³	投薬量(kg)	供試虫死滅率%	カビ死滅率%
1	B 1	第 1 収 蔵 庫	314 ⁴	1,413 ⁵	100 g	141 ⁷	100	100
2	"	展 示 準 備 室	40 ⁰	102 ⁰	50	5	100	
3	"	倉 庫	29 ²	113 ⁴	50	5 ³	100	
4	"	第 4 収 蔵 庫	99 ⁴	467 ²	50	23	100	
5	"	工 作 室	35 ¹	165 ⁰	50	8 ³	100	
6	"	第 5 収 蔵 庫	55 ⁰	258 ⁵	50	13	100	
7	"	倉 庫	15 ⁰	60 ⁰	50	3	100	
		小 計	587 ⁸	2,579 ⁶		199		
8	1 F	自 然 展 示 室 I	583 ⁸	2,919 ⁰	50	146	100	
9	" "	" II	478 ⁸	2,394 ⁰	50	120	100	
10	"	学 習 室	95 ⁴	477 ⁰	50	24	100	
11	"	第 6 収 蔵 庫	142 ⁸	714 ⁰	100	72	100	100
12	"	準 備 室	58 ⁸	294 ⁰	50	15	100	
		小 計	1,359 ⁶	6,798		377		
13	2 F	人 文 展 示 室 I	984 ⁹	4,924 ⁵	50	246	100	
14	"	" II	478 ⁸	2,394 ⁰	50	120	100	
15	"	特 別 展 示 室	193 ²	966 ⁰	50	48	100	
16	"	準 備 室	26 ⁵	132 ⁵	50	7	100	
17	"	特 別 収 蔵 庫	142 ⁸	764 ⁰		77	100	100
18	"	第 1 研 究 室	25 ⁵	96 ⁹	100	5	100	
19	"	第 3 研 究 室	38 ⁴	145 ⁹	50	7	100	
20	"	人 文 研 究 室	50 ⁴	191 ⁵	50	10	100	
21	"	倉 庫 2 - 1	7 ²	28 ⁸	50	1 ⁵	100	
		小 計	1,947 ⁷	9,644 ¹	5	521 ⁵		
		総 計	3,895 ¹	19,021 ⁷		1,097 ⁵		

図6：各部屋の投薬量及び燻蒸結果

② 燻蒸期間

燻蒸期間は資料移動作業等及び燻蒸範囲など考慮すると最低8日間必要であった。作業日程は図3のとおりである。

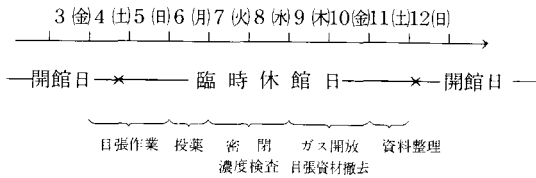


図3：燻蒸作業日程表

(2) 臨時休館の広報及び安全対策

燻蒸期間中は臨時に休館するため、利用者に対する周知及び安全確保のために次のことを実施した。また、岐阜県博物館管理規則第3条第3項に基づく掲示も合わせて行なった。

④ 一般新聞掲載

⑤ 県広報紙（くらしと県政）掲載

⑥ “博物館だより” 掲載

⑦ 実施前10日間にわたる館内放送

⑧ 関市教育委員会を通じて市内小・中学校への通知

① 百年公園北口・南口及び館入口スロープに立看板の設置。また、館周辺の立入禁止のロープ及び表示板の設置

② 不測の事態に備え保健所・警察署・消防署及び地元病院へ連絡した。



(百年公園南口立看板)

(3) ガス漏れ防止と監視体制

① ガス漏れ防止には各部屋の完全な目張りが必要であり前回は引き続き、今回も最大限の注意を払って実施した。目張りが不完全な場合、せっかく投入した薬剤を浪費するだけでなく危険が伴うからである。投薬後、定期的に各部屋の上段、中段

下段において濃度チェックを行なった。図7～9は第1収蔵庫の作業配置図と濃度測定結果及び濃度推移グラフである。このことにより、今回ほぼ効果的に実施されたと認められた。ただ、特別収蔵庫と第6収蔵庫とが空調ダクトのつながりによって若干のガス漏れがあり十分な濃度維持が困難であった。今後の検討課題として次回の参考となれば幸いである。

図7：第1収蔵庫作業配置図

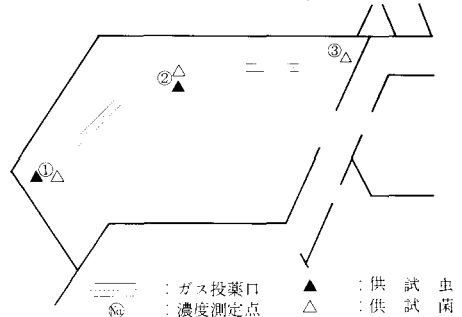
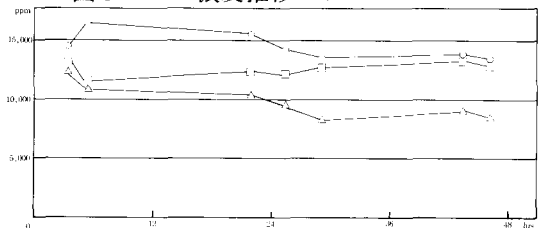


図8：第1収蔵庫ガス濃度測定結果

(エキボン：ppm)

	No. 1 0.8m	No. 2 1.6 m	No. 3 2.8 m	干渉式ガス濃度測定器によって得られた臭化メチル濃度を、温度補正を加えてエキボン濃度に換算
7/6 11:30	14760	13040	12350	
15:00	16130	11320	10980	
17:00				
7/7 9:15	15440	12350	10300	
12:30	14070	12010	9610	
16:45	13320	12830	8240	
7/8 9:00	13730	13380	8850	
11:20	13560	13010	8580	
13:00	Expulsion			

図9：ガス濃度推移グラフ



○=No. 1 ; □=No. 2 ; △=No. 3

② ガス漏れによる第三者への危険防止のために次のような監視体制をした。

③ 警備員による24時間監視を実施

④ 昼間、職員による巡回監視の実施

⑤ 投薬後、業者技術者による24時間常駐を義務づけた。

⑥ 常時、業者に炎色判応によるガス漏れチェックを義務づけた。

(4) 資料への汚損防止

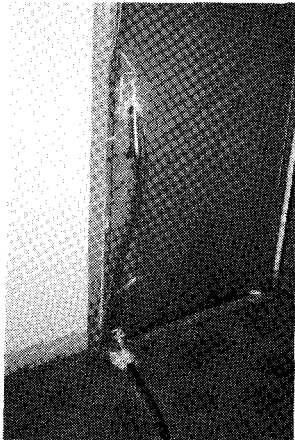
資料への汚損防止のため薬剤の選定、目張り材料、及び空調停止による温・湿度の変化等に次の対策を講じた。

①薬剤の液体状態放出による資料、壁面等の汚損防止のため、防爆装置付きの気化機を使用するよう義務づけを行った。

②目張り材料による壁面汚損を防止するため、水溶性糊使用の義務づけを行った。今回、地下収蔵庫にての日張りで湿気の関係上若干の汚損が確認された。次回方法等を検討する必要があると思われる。

③薬剤は爆発性があり、燻蒸時間中は館内におけるすべての電源を遮断した。このため資料に与える温・湿度の変化が心配されたが著しい変化はみられなかった。

(目張り及びガスパイプ挿入)



(5) ガス開放と 残留ガス検査

ガス開放は、燻蒸開始より48時間以上経過した場所から排煙システムによって行なわれた。また、メチルブロマイドは空気と比べて重いため、滞留していたガス

に対しては、強制排気ブローを使用し、送気・排気を繰り返しながら開放作業を行った。

ガス開放中には、ガスリークチェッカーと臭化メチルガス検知管とを併用して残留ガス濃度を測定。7月11日の最終残留ガス濃度検査(安全確認検査)ではすべて『-』の反応が示されたことから、安全状態に復帰したことを確認して引渡しを受けた。

(6) 効果確認

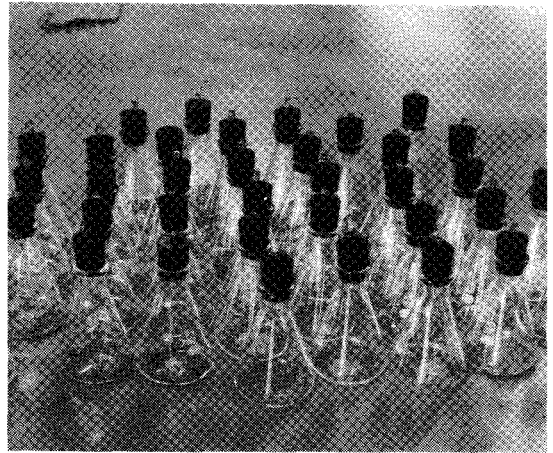
今回の燻蒸における最大の目的は効果がいかにあがったかが大きな課題であった。そのために、種々の効果判定を行った。

①供試虫ヒラタクヌストモドキを全燻蒸対象室に設置し、さらに各部室の上・中・下段に測定点を設けて、定期的にガス濃度チェックを行なった。

その結果、図6のように全部室において死滅が確認された。

②第1収蔵庫、第6収蔵庫及び特別収蔵庫は糸状菌までも目的としているため、供試虫の他に供試菌も配置した。その結果、図7のようにすべてにおいて死滅が確認された。また、同時に燻蒸前後において空中浮遊真菌と表面付着真菌とが調査されたが、ガス開放時の空気の入替えの際に新たな混入が生じたものと思われる、室内が無菌状態になっていなかった。しかし、各収蔵庫の処理前後の数値を比較すると十分に燻蒸効果があったものと推定される。

以上において、今後若干の検討課題は残したものの当初の目的は達せられたと思われる。



(コクヌストモドキの入ったフラスコ)

(7) むすび

今回の全館ガス燻蒸消毒は前回(昭和53年度実施)の実施結果を基に改善すべき点は改善し、十分な調査、計画及び打ち合せのもとに実施した。また、燻蒸期間中事故もなく、資料等への汚損も最少限度にとどめ、そして、当初の予定の中で実質的效果があげられたと思われる。

ほぼこれで、岐阜県博物館の燻蒸消毒における基本的なルールは敷かれたと思われる。次回、昭和59年度における全館ガス燻蒸消毒は今回の反省を基により効果的な燻蒸が実施できるものと思う。

更にこれを機会に、貴重な文化財を害虫からの防除へ一層強力に進めていかなければならないと思う。